

# 板 木

群馬県へき地教育研究資料第71集



「現存する板木」(みなかみ町)

令和5年3月

群馬県教育委員会  
群馬県へき地教育研究連盟  
群馬県へき地教育振興会

# 板 木

群馬県へき地教育研究資料第71集

## 序



へき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、創刊は昭和 27 年に遡ります。この年は、群馬県へき地教育研究連盟が発足した年でもあります。今年度で第 71 集となる「板木」は、群馬県のへき地教育の営みの結晶であるとともに、へき地教育を語る重要な資料であります。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。へき地教育の振興につきましては、昭和 29 年の「へき地教育振興法」の制定以来、さまざまな施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助、県へき地教育研究大会の開催などの施策を推進しております。

県教育委員会では、第 2 期群馬県教育大綱及び第 3 期群馬県教育振興基本計画の基本目標に「たくましく生きる力をはぐくむ～自らの可能性を高め、互いに認め合い、ともに支え合う～」を掲げ、誰一人取り残さない学びを推進するとともに、生涯にわたり一人一人がもつ個性や能力を伸ばし、自ら学び、自ら考える力の育成や、誰もが互いに多様性を認め合い、共に支え合う教育を推進しております。このような中、県内のへき地学校では、小規模校ならではの特性を生かし、子どもたち一人一人の理解を基にした学習支援や、自然に恵まれた教育環境や地域とのつながりを生かした、共に支え合う教育を推進しております。また、1 人 1 台端末が整備されたことにより、時間的・距離的な制約に関わらず、相互に情報の発信・受信を行ったり、瞬時に情報を共有・可視化したりすることができるようになるなど、へき地学校の教育は、一層充実されてきております。

今年度の県へき地教育研究大会は、みなかみ町を会場に、「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の切り手となる子どもの育成～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」をテーマに行われました。研究協議では、「学校の特色を生かした教育活動の推進～地域の人材や伝統を活かして～」、「自ら課題を見つけ、対話を通してより深い学びを得ようとする生徒の育成～ICT機器の効果的な活用や、対話的な学習活動の工夫を通して～」について発表がありました。地域人材の活用や児童生徒主体の授業や諸行事等を通して、郷土の未来を担う夢や誇りをもった子どもたちになって欲しいという思いを感じることができました。また、学校公開では、確かな学力の育成を目指し、子どもたち一人一人を大切に授業が見られました。

このように、へき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られております。これらの教育実践は、へき地校のみならず、すべての学校に多くの示唆を与えてくれるものです。今後もこれまでの実践の成果を踏まえつつ、へき地校ならではのよさを生かした教育を、なお一層推進していただきたいと思っております。県教育委員会といたしましても、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいります。

結びに、へき地教育研究資料「板木」第 71 集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関において「板木」が十分活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

令和 5 年 3 月

群馬県教育委員会

教育長 平田 郁美

## 「板木」第71集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきております。これらは、へき地教育に献身的に

取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心より感謝申し上げます。

今年度のへき地指定校は30校であり、これは県内の全小中学校数の10%にも満たない数であります。へき地校に通う児童生徒の数も減少の傾向にありますが、へき地校に通う児童生徒を見ると、心身共に健やかで、地域をよく知り、地域を好きになる子が増えているように感じます。これは、豊かな自然やこれまで大切に守られてきた地域の伝統や行事などを生かし、学校・家庭・地域が一体となって教育を推進していただいているおかげだと考えております。

新型コロナウイルス感染症対策や1人1台端末の配備など、子どもたちの置かれている環境は大きく変化し、先を見通すことがますます難しくなってきております。そのような時代においても、次世代を担う子どもたちが生まれ育った郷土・群馬に誇りと愛着をもち、人と人との関わりの中で鍛え上げられた感性を働かせて、現在では思いもつかない新しい未来の姿を創造していく力を育んでいってほしいと願っております。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第71集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つ大変意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様には、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せての挨拶といたします。

令和5年3月

群馬県へき地教育振興会

会長 星野 已喜雄

## 「板木」第71集の発刊にあたって

平素より関係の皆様には、へき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しまして、御支援と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策の関係で、第69・70集を併せて発刊することとなりました。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、様々な研究大会が中止になったり、ハイブリッドの大会になったり、規模を縮小したりしました。へき地教育に関わる大会は、群馬県へき地教育研究大会は規模を縮小して開催し、関東甲信越大会は中止、全国大会は参集とオンラインのハイブリッドで開催されました。これらの成果を踏まえて、群馬県へき地教育研究資料「板木」第71集を発刊することができました。

「板木」は、群馬県へき地教育の貴重な資料として長年活用されてきています。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様のご尽力に対しまして、心から敬意を表します。

巻末の資料には令和4年度のへき地学校の資料や群馬県へき地教育振興会役員名簿、群馬県へき地教育研究連盟役員名簿、群馬県へき地教育センター指導員名簿、へき地教育功労者名簿も掲載させていただきました。

全国へき地教育研究連盟は、へき地学校、複式学級を有する学校、分校等の教育の充実を図り、もってへき地における教育の振興を図ることを目的とし、昭和27年の結成以来、北海道大会で開催された第1回全国大会を皮切りに、全国各地での研究協議会の開催や実践事例集の発行など71年間にわたって、研究を積み重ねてきました。

令和元年度から研究主題として「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成 ～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～」を掲げ、第9次長期5か年研究推進計画を進めてきました。今年度はその4年目になり、山形県において「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく、たくましい子を育てよう」を大会スローガンとして、参集とオンラインのハイブリッドで開催されました。

山形県は山間部も多く、内陸部にある山形市と日本海側にある地域とでは同じ県内でありながら、高速道路を使っても3時間以上かかる場所もあります。そして、南北にも広がっているため、広さを実感しました。また、今回の大会のために地域にある学校が、一致団結して臨んでいる姿に地域の結びつきの強さを感じました。

群馬県では、みなかみ町立藤原小学校を会場に研究大会が開催され、教員と子どもが1対1という実態の中で、子どもに考えさせるための教員の指導の工夫と努力を間近で感じることができました。これは現地でなければ、実感できないものと思っています。情報機器が大変発達してきている世の中ですが、やはり実際に見て感じるものが大切になると感じました。

「板木」には、これまでに積み重ねてきた教育実践とそれを基にした新たな課題解決に向けた研究が結集しています。「教育の原点はへき地教育にあり」とも言われています。この「板木」が、へき地のみならず、未来の創り手となる子どもの育成につながっていくことを祈念しております。

結びになりますが、「板木」第71集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方にお礼を申し上げますとともに、日頃より御指導と御支援をいただいております群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和5年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 **飯島 好行**

# も く じ

## 序 文

序	-----	群馬県教育委員会教育長	平田 郁美
「板木」第71集の刊行に寄せて	-----	群馬県へき地教育振興会長	星野 已喜雄
「板木」第71集の発刊にあたって	-----	群馬県へき地教育研究連盟理事長	飯島 好行

## 第1部 へき地教育の振興

### I 変貌するへき地の学校

みなかみ町立藤原中学校の閉校	(前)校長	永島 芳信	-----	1
安中市立松井田北中学校の閉校にあたって	校長	國峯 智	-----	2
長野原町立西中学校の閉校	校長	宮崎 岳彦	-----	3

### II へき地の学校経営

〈1〉小学校	中之条町立六合小学校長	木暮 陽子	-----	4
〈2〉中学校	沼田市立利根中学校長	田村 学	-----	6

### III 学習指導の改善に関する実践的な研究

神流町立万場小学校長	右井 義人	-----	8
------------	-------	-------	---

### IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校	片品村立片品小学校長	小林 菊江	-----	10
〈2〉中学校	南牧村立南牧中学校長	赤石 啓寿	-----	12

## 第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

### I 令和4年度へき地学校教員研修の概要 ----- 14

群馬県へき地教育研究連盟研究部長	
沼田市立多那中学校長	田部井 由美子

## II 第71回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉 概要	-----	15
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
沼田市立多那中学校長	田部井 由美子	
〈2〉 提案要旨		
《小学校班》 嬭恋村立西部小学校長	小池 裕生	----- 16
《中学校班》 高崎市立倉渕中学校長	大塚 浩文	----- 18

## III 第71回全国へき地教育研究大会（山形大会）

〈1〉 概要報告	-----	20
群馬県へき地教育研究連盟研究部長		
沼田市立多那中学校長	田部井 由美子	
〈2〉 分科会報告		
A分科会 県義務教育課指導主事	丸山 剛史	----- 21
B分科会 草津町立草津小学校長	水出 宣広	----- 21
C分科会 上野村立上野小学校長	梯 直人	----- 22
D分科会 上野村立上野小学校長	梯 直人	----- 22
E分科会 沼田市立多那中学校長	田部井 由美子	----- 23
F分科会 中之条町立六合中学校長	桑原 武史	----- 23
G分科会 高崎市立倉渕小学校長	飯島 好行	----- 24
H分科会 片品村立片品中学校長	星野 文隆	----- 24

## 資 料

I 令和4年度へき地学校資料	-----	25
II 令和4年度群馬県へき地教育振興会役員	-----	28
III 令和4年度群馬県へき地教育研究連盟役員	-----	29
IV 令和4年度群馬県へき地教育センター指導員	-----	29
V 令和4年度へき地教育功労者	-----	30

あとがき	-----	31
------	-------	----

# 第 1 部

## へき地教育の振興



群馬県へき地教育研究大会 開会行事



群馬県へき地教育研究大会 研究協議会



# I 変貌するへき地の学校

## みなかみ町立藤原中学校の閉校

みなかみ町立藤原中学校（前）校長 永島 芳信

### 1 はじめに

利根川の最初の一滴を生み出す藤原の地に、水上村立藤原中学校が創立したのは昭和22年5月のことである。生徒数71名で開校し、昭和39年には113名まで増えたが、平成になってからは減少傾向が続き、令和3年度の5名を最後に75年の歴史に幕を閉じた。この間、1135名の卒業生が学び舎を巣立ち、各方面で活躍されている。平成20年度からは藤原小学校との小中併設校となり、義務教育9年間を通して、「地域を愛し、社会の変化に主体的に対応できる高い知性と豊かな人間性や社会性を備え、心身ともに健康でたくましい児童生徒の育成」を目指して教育活動に取り組んできた。学力向上にも熱心に取り組み、少人数の強みを生かしたきめ細かな指導を通して生徒に確かな学力を身に付けてきた。また、日本有数の豪雪地帯であるという地の利を生かしたスキー競技が盛んで、県中体連総合体育大会スキー大会では幾度も総合優勝したり、全国中学校スキー大会に多くの選手を派遣したりと県内外にその名を馳せた。


### 2 藤原中学校の取組

最終年度となった令和3年度は、これまで藤原中学校を築いてこられた先輩諸氏の思いを胸に、生徒の「自己肯定感の醸成」を重点に教育活動を進めてきた。藤原中学校は県内最小規模であることから、生徒たちは卒業後必ず中学校よりも大きな社会で生活することとなる。広い世界にあっても堂々と自己の力を発揮してほしいことを願って、教職員一丸となって支援してきた。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、学校行事や生徒会活動では内容や方法の変更を余儀なくされたが、生徒たちは自ら主体となって変更点を考え、運営に取り組み、自分たちの行事を自らの手で創り上げることができた。そうした活動の中で、友達のよさやがんばりを認め合う温かさ、共に力を伸ばしていこうという絆を多くの場面で発揮してくれ、感動させられた。学校生活の充実に向けて積極的に取り組む姿から、自己を認め自分の価値を尊重する思いが感じられ、教職員一同、生徒の「自己肯定感の醸成」が実現できたことを実感している。また、こうした生徒の美しい心に触れられたことは教職員として幸せであったと感じている。生徒たちには、藤原中学校で学んだことを誇りとするとともに、ふるさと藤原で培った温かさを礎として、自信をもって堂々と歩んでくれることを願っている。

### 3 おわりに

藤原地区の心のふるさとである藤原中学校の閉校は、地域にとっても、卒業生にとっても、我々教職員にとっても大変寂しいことであった。今後は、存続となった藤原小学校の教育を充実させることが藤原中学校の伝統を受け継ぐことであり、藤原中学校への恩返しであると考え、教育活動を一層充溢させたいと考えている。

これまで75年にわたり教育活動を充実させることができたのは、地域・保護者・関係各所の皆様の御支援、みなかみ町教育委員会の御指導のお陰、そして校歌に謳われた「ふるさとの美しさ」の賜と感謝している。御協力いただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

三	二	一	
わかれら 藤原中学生 三 ころ素直にひとすじに そそぐ雄々しき 滝のごと のぞみ果てなき 若鳥よ ああふるさとの、ふるさとの美しさ 三年はるあき 励みゆく われら 藤原中学生	ああ、ふるさとの、ふるさとの美しさ 学びの窓に 睦みあう われら 藤原中学生 映す白樺 藤原の 湖水の彩は 深みどり 若き眸の 濁りなく ここに生いたち 学びゆく われら 藤原中学生	山毛櫨の 茂みや から松の 芽吹きや わらな 奥利根を さざめきめぐる 溪川よ ああ、ふるさとの、ふるさとの美しさ ここに生いたち 学びゆく われら 藤原中学生	藤原中学校校歌 鈴木比呂志 作詞 長洲 忠彦 作曲

# 安中市立松井田北中学校の閉校にあたって

安中市立松井田北中学校 校長 國峯 智

松井田北中学校は、昭和22年に細野村立細野中学校としてスタートした。昭和25年には普通教師校舎（北校舎8教室）が完成した。そして、市町村合併により、昭和29年に松井田町立細野中学校、昭和37年に松井田町立北中学校と校名改称された。したがって「北中」に校名改称されたのは、設立15年後ということがわかる。昭和22年から76年後、昭和37年から61年後の、令和5年3月31日に、歴史ある松井田北中学校が閉校することになった。

私は、隣接の細野小学校の校長として2年間、松井田北中学校の校長として1年間、計3年間安中市の細野地区の義務教育に関わらせていただいた。両校ともへき地校である。そして、松井田北中学校の閉校に携わったことは、私の教員人生の中でもとても大きなことだと感じている。

3年前に細野小学校に赴任することが決まった時、知人から「細野はとってもいいところですよ、桃源郷ですよ。でも、自然もすばらしいけど、何より子供たちがいいですよ。」と教えていただいた。「桃源郷」とは「世俗を離れた別世界」のことを指す言葉で、わずらわしいことのない楽園とも言う。4世紀頃にいた中国の詩人の「陶淵明」が書いた散文「桃花源記」が、「桃源郷」の由来である。「桃花源記」に出てくる「桃源郷」は、桃林に囲まれた平和で豊かな場所で、住んでいるのは、数百年前の戦争を避けて、隠れ住み始め、そのまま何も知らずに住み続けている人々となっている。つまり、桃林があつてとても美しく、戦乱などのめめ事のない、理想的な場所として描かれている。まさに、現代の「桃源郷」である細野地区は、「子供たちを豊かで健全に育てる力を持っている土地である。」と、この3年間の勤務で確信した。ただ風景が美しいだけではない。素朴で純粹で、心が美しい生徒たちの姿は、おそらくこの土地に住む地域の皆さんの鏡であると思う。

さて、1年前に松井田北中学校に赴任して、驚いたことの一つが二階の多目的室に飾ってある「歴代PTA会長」「教育振興会長」「歴代校長」の写真である。この写真を見る度に、「先輩方に恥ずかしくない教育をしているか？」と自問自答してきた。又、10月に開催した最後の北友祭の来校者の人数の多さにも驚いた。卒業生や地域の皆さんにとって、北中がどんなに大きな存在であるかを身に染みて感じた。「北中愛」をひしひしと感じた。そして、松井田北中学校の歴史の重みを感じるとともに、地域の皆さんが松井田北中学校を大切に、支えてくださっていることがよく理解できた。

閉校後の、地域の皆さんの一番の心配ごとは、細野の地から人が離れてしまうことだと思う。しかしながら「学校がなくなることは、次のスタート！」と、考えることもできる。生徒たちも、閉校後の北中の校舎や校庭をどう生かすかについて真剣に考えた。「サイクルパーク」「ジビエの店」「フラワーパーク」…など、様々なアイデアが出た。生徒たちのアイデアを聞いていると、ワクワクする気持ちが高まってきた。どのアイデアも、人が集まり、活気が出ること間違いのないと思った。そして、生徒たちの夢を実現するためには、我々大人が動き出さなければならないと、強く感じた。

最後になるが、今日まで松井田北中学校の教育に携わり、見守ってくださった地域の皆さん・保護者の皆さん・卒業生の皆さん、そして生徒に寄り添い、支えてくれた教職員の皆さんにあらためて心より感謝申し上げたい。



松井田北中学校の最後の文化祭（北友祭）

# I へき地の学校経営

## 〈1〉細野小学校

### 自ら学び、心豊かに たくましく生きる 細野っ子の育成

安中市立細野小学校長 國峯 智

#### 1 学校の概要

本校は安中市の北西部に位置し、上毛三山を眺望する豊かな自然環境にあり、明治十二年に、この地域の四私塾が合併して細野西小学校として開設された。以後、138年の歴史を誇り、近年は過疎化が進み児童数は年々減少、今年度は児童47名、7学級となっている。

常勤の教職員は12名で、担任の平均年齢は41歳であり、ベテランの割合が多い教師集団である。

##### (1) 地理的特色

本校区は東を九十九、西を坂本、南を新堀、北を倉渕町に接し、土塩、新井、上増田の三地区より成り、学校はその中心の細野が原に位置している。学校の周辺は松井田北中学校、郵便局、JA細野支所、細野ふるさとセンター（細野地区生涯学習センター）、駐在所、細野保育園等があり、地域文化の拠点になっている。校区は東西に長く13.5km、南北に5.4kmにわたっている。西部は森林が広がっており、標高は1300m、東部は260mでわずかに平地を成している。南に九十九川、北に増田川が流れていて、台地上の細野が原には、増田川から引いた用水によって水田が営まれている。水田は、両川の周辺で営まれているが、耕作地としては畑地が多く、コンニャクやネギなどの栽培が多い。地域には史跡「仙ヶ滝」、天然記念物「彼岸桜」「七色もみじ」、「福寿草の自生地」や「ろうばいの郷」等があり、四方に浅間山、妙義山や榛名山を眺望する豊かな自然環境にある。

##### (2) 教育的特色

豊かな自然と風光明媚な景色に囲まれ、児童の学習する自然環境は非常に恵まれている。路線バスが廃止され、国準へき地であるが、昭和54年に町の中心地方面に向かう天神山トンネルが完成し、道路も舗装され交通事情が改善された。本校区は、かつて純農村地区であったが、現在では農林業を専業とする保護者はわずかで、ほとんどが兼業である。主に祖父母が農業を営み、保護者の多くは勤めに出ている。保護者の学校行事やPTA活動への関心は高く、地域の教育力にも恵まれ、地域の方々の尽力により平成9年に建設された快適な校舎で充実した教育活動が展開されている。

#### 2 学校教育目標

(1) 基本目標 自ら学び、心豊かに たくましく生きる 細野っ子の育成

(2) めざす児童像

- ・すすんで勉強する子
- ・みんなと仲よくする子
- ・たくましい子

#### 3 学校経営の方針

(1) 未来を切り拓く生きる力を育む学校づくり

(2) 教職員が協働する学校づくり

(3) 家庭・地域から信頼される学校づくり

#### 4 実践の概要

(1) 確かな学力を身に付けさせる学習指導の工夫

はばプラⅡやICT活用 Version を活用し、問題解決的な授業づくりやICTを日常的に活用した授業改善に努めた。今年度導入した一人1台のタブレット端末や電子黒板を活用したり、体験的学習や課題解決的学習、言語活動を工夫することを通して、児童一人一人に自ら学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力などの資質や能力を育てた。

また、授業中の基本的な学習態度を身に付けさせると共に、家庭学習の習慣化を図るために「学びステップアップ週間」を設定した。「学びステップアップ週間」に取り組んだ結果、自分で目標を立てて、目標を達成しようとする取り組みことで、達成感や満足感が高まり、毎日の学習時間や読書時間が定着した。



タブレット端末を活用した授業

#### (2) 豊かな人間性を育む学級経営・生徒指導の推進

生徒指導の3つの機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）を生かした日常的な指導を通して、児童の自己指導能力の育成に努めるとともに、学校・学級が楽しく、安心感、充実感が得られる居場所づくりに努めた。また、新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見を防ぐための指導を担当が日常的に行うだけでなく、朝礼で校長が直接指導した。

#### (3) よりよく生きるための道徳教育・人権教育の実践

「考え、議論する道徳」の実践と自他を大切にする心、感動する心を育む道徳教育の充実に努めた。人権重要課題への理解を深めるとともに、児童一人一人のよさや努力が認められる雰囲気づくりに努めた。さらに、異年齢集団（サーキット班、清掃班）の活動を通して、児童の好ましい人間関係づくりを育むとともに、高学年の児童の自己有用感を育んだ。

#### (4) 開かれた学校づくり、家庭・地域との連携

学校・学級だけでなく、ホームページ、地域での会議等を活用し、積極的かつタイムリーに家庭や地域へ情報発信した。さらに、授業参観、懇談会、オープンスクールなどの教育活動の積極的な公開を通して、家庭・地域との連携と信頼関係づくりに努めた。郷土への関心を高め、郷土愛に満ちた子どもを育成するための地域の人的・物的資源を活用した。



サーキット班の活動

## 5 終わりに

令和3年度の「学校教育の指針」では、学校経営の軸に「ICTを活用した教育活動」と「新しい生活様式を踏まえた教育活動」を据えている。このことは、本校においても、まさに喫緊の課題である。課題解決のため、コロナ禍での教育活動の難しさを感じながらも、組織的計画的に学校経営に取り組んできた。その中で、とくに重点として取り組んだことは、タブレット端末等のICT機器を活用した授業改善である。未来を切り拓く生きる力を育めるように、校内研修で職員同士互いに切磋琢磨し、指導力の向上を図った。今後も、地域と積極的に連携したり、小規模校のよさを生かしたりしながら、自ら学び、心ゆたかにたくましく生きる細野っこの育成に努めていきたい。

# 長野原町立西中学校の閉校

長野原町立西中学校 校長 宮崎 岳彦

## 1 はじめに

本校は、町の南半分を占める北軽井沢・応桑地域を学区としている。北軽井沢・応桑地区は、浅間山北麓ジオパークに指定された標高900～1300mの浅間高原にある。古くから別荘地・高原リゾート地として知られ、牧場、ゴルフ場、キャンプ場などがあり、多くの観光客が訪れる。また、広大な土地や夏期冷涼な気候など恵まれた自然条件を生かし、特色ある農業が活発に展開されている。特に、広大な開拓地を生かした日本有数の酪農地帯とキャベツ、レタスをはじめとする高原野菜の産地が形成されている。

本校は、昭和22年「長野原町立長野原中学校応桑分校」として開校し、昭和29年3月に現在の校名で独立した。生徒は、応桑小学校と北軽井沢小学校の2校から入学してくる。令和4年度、全校生徒数は65名である。現在、長野原町では学校統合が計画され、本校は令和5年4月に東中学校と統合する。



## 2 学校の沿革

- 昭和22年 長野原町立長野原中学校応桑分校として開校
- 昭和24年 校舎完成。落成式挙。第一回開校記念式挙
- 昭和29年 長野原町立西中学校として独立
- 昭和34年 給食調理室改装し完全給食実施
- 昭和38年 体育館落成、技術室完成
- 昭和45年 校歌発表
- 昭和54年 新校舎落成 鉄筋3階
- 平成3年 屋内プール落成
- 平成16年 日本PTA全国協議会長表彰
- 平成19年 県教委「キャリアスタートウィーク」指定校
- 平成22年 屋内運動場（新体育館）竣工式
- 平成24年 耐震工事・大規模改修工事完了
- 平成29年 文科省「人権教育推進事業」指定研究
- 令和3年 全国へき地教育研究大会宮崎大会オンライン発表
- 令和5年 閉校式を挙

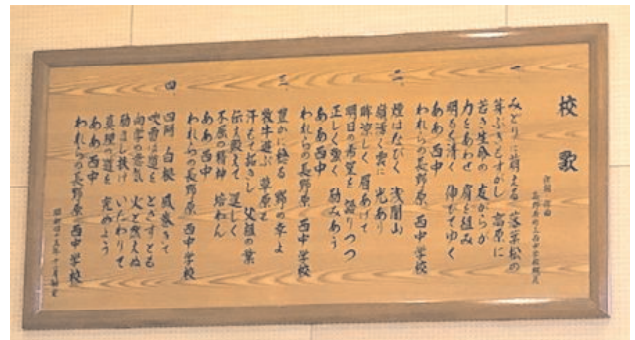


## 3 おわりに

「長西中」には、長野原町周辺の山々や豊かな自然、四季ごとの美しい風景を描いている校歌がある。昭和45年に本校職員が作った、4番まである校歌である。本校では、行事のたびに、4番までしっかり歌ってきた。

また、生徒たちは、校歌をしっかり歌うだけでなく、「一生懸命はカッコいい！」の学校スローガンのとおり、様々な行事や活動に一生懸命、前向きに取り組んできた。

統合して「長野原中」になっても、生徒たちは、これまでどおり一生懸命で前向きな姿勢を続けていってくれると信じている。



## Ⅱ へき地の学校経営

### 〈1〉小学校

# 心豊かで思いやりのある六合っ子の育成

～六合小ビブリオバトルを通して～

中之条町立六合小学校長 木暮 陽子

#### 1 学校の概要

本校は、群馬県の最北西部、長野・新潟県境に位置している。地域の92%を山林と原野が占め、ラムサール条約に登録された「芳ヶ平湿地群」「チャツボミゴケ生物群集の鉄鉱生産地」などの雄大な自然と、尻焼温泉を代表とする豊富な温泉がある。六合地区の人口は1086人で、近年では年間100種類を超える切り花の栽培で有名となっている。「六合（くに）」は難読地名である。これは、明治時代6つの大字が合併して六合村となった際、古事記の「天地四方をもって六合とし、これをくにと読む」にならったことに由来している。

平成20年度、六合村立第一小学校・入山小学校が統合、平成22年度からは中之条町立六合小学校となり、六合小学校としては本年度で開校14年目を迎えた。主な通学方法はスクールバスであり、約80%の児童が利用している。児童数は24名（男子11名・女子13名）、学級数は5学級（1・2年、3・4年、5年、6年、特別支援学級1学級）の小規模校である。



満開の桜と六合小学校校舎

#### 2 学校教育目標

- (1) 基本目標 ふるさとの自然と文化を愛し、21世紀をたくましく生きる六合っ子を育成する。
- (2) 具体目標

○すすんで学ぶ子	基礎学力を身に付け主体的に学ぶ子
○互いにたすけ合う子	豊かな人間性を備え思いやりのある子
○自分をきたえる子	自らの健康安全に関心を持ち進んで身体をきたえる子

#### 3 学校経営の方針

学校教育目標の実現に向けて、本校の実態や地域の教育力を生かした学校経営に全職員の参画体制と協働態勢で取り組み、特色ある教育活動を推進する。

- (1) 教職員個々の特性・能力を生かし、創造的・主体的・協働的に学校経営を進める。
- (2) たくましく生きる力を育む教育課程の編制・実施・評価・改善に努めるとともに、学級経営・教科経営を基盤として創造的で感動あふれる教育活動を推進する。
- (3) 幼小中の連携を一層推進し、小規模校の良さを生かした教育の実現を図る。
- (4) 郷土を愛し、そこで学ぶことに誇りをもてる児童を育成する。
- (5) 家庭や地域との連携を密にし、地域に開かれた教育活動を展開する。

## 4 実践の概要

令和3年度、児童の読書への興味・関心を高めるため本校の卒業生で「全国大学ビブリオバトル」の優勝者を講師に招き読書講演会を行った。その際、一方的に話を聞くのではなく、児童が主体的に取り組むことができるビブリオバトルを行うことにした。正式なビブリオバトルのルールは小学生には難しいので、六合小版のルールで行った。昨年度に引き続き、本年度もビブリオバトルを行っている。

### (1) 計画図書委員によるビブリオバトル（11月16日）

朝活動の時間に、計画図書委員6名が本を紹介し、それ以外の児童が質問者となった。発表を聞いていた児童からは「本の主人公と同じ気持ちになったことはありますか?」「なぜその本を選んだのですか?」などの質問が出された。質疑応答の後、投票を行いチャンプ本を決定した（図1）。

このときに紹介された本6冊は多目的スペースの図書コーナーに展示し貸出しを行った（図2）。早速本を借りていく児童の姿が見られた。

### (2) 全校児童によるビブリオバトル

第2回のビブリオバトルは全校を4つのグループに分け、全員が本の紹介を行う予定である。ここでは令和3年度の活動を紹介します。

1年生～6年生を6名程度のグループに分け、一人ずつ本の紹介を行った。事前に本を読み込み紹介文を考えたり、紹介したいページに付箋を貼ったりして準備をした。

発表後グループごとに質疑応答を行った（図3）。その後投票をしてグループのチャンプ本を決定した。チャンプ本の発表者には認定証を贈り、図書室に掲示した。令和4年度も3学期に同様の活動を行う予定である。

### 六合小ビブリオバトルのルール

- ①発表者が読んで面白いと思った本を紹介する（1分）
- ②聞いていた人が質問する（2分）
- ③全員の発表・質問が終わったら、投票
  - ・どの本が一番読みたくなったか
  - ・「人」ではなく「本」に投票
- ④チャンプ本を決定する



図1



図2



図3

## 5 終わりに

本校には小規模校ならではの良さがある半面、狭い人間関係の中で価値観が育まれるため多様性に欠けるなどの課題がある。この課題を解決するためには、読書が有効であると考え。読書を通して登場人物に自分を置き換え感情移入ができるようになったり、文中の描写で想像力を高めたりすることができる。これまで知らなかったことを知り自分の世界を広げるとともに、他者に共感し相手の気持ちに寄り添うなど、思いやる心を育むことができると考えるからである。また、多くの文章に触れることにより語彙力がつき表現力が豊かになることも期待される。

昨年度の読書講演会の際、講師の先生から「本は魔法の道具。本の中では、自分がやったことがないことができたり、行ったことのない国にも行けたりする。いっぱい読めば読むほど将来面白いことが増える。」というお話があった。昨年度の活動後、図書の貸出数が増えたりクラス単位でビブリオバトル行ったりするなど、読書への意欲の向上が見られた。思いやりの心は一朝一夕に育つものではない。今後もビブリオバトルを核とした読書啓発活動を継続し、心豊かな児童の育成に努めていきたい。

## 〈2〉 中学校

# 地域の教育力を生かした学校経営

沼田市立利根中学校長 田村 学

### 1 はじめに

本校のある利根町（旧利根郡利根村）は、平成17年2月の市町村合併により、沼田市に編入した。四方を1300mから2400mの山々に囲まれ、町の南部は赤城山の北斜面になっている。町の西部には片品川が流れ、国天然記念物に指定されている吹割溪谷や川に沿って温泉街が広がる老神温泉などがあり、豊かな自然や温泉を求めて訪れる観光客も多い。

本校は利根町の追貝地区にあり、沼田市内中心地から北東へ20kmほど離れたところに位置している。昭和22年度に東村立東中学校として開校し、昭和31年度に利根村立利根東中学校、平成9年度に利根村立利根中学校となり、平成17年2月より現在に至っている。生徒数49名、特別支援学級を含め5学級のへき地小規模校である。全体的に素直で真面目な生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。



### 2 学校教育目標

高い知性と豊かな心を持ち、心身ともに健康で、強くたくましく生きる生徒を育成する。

### 3 学校経営方針 基本姿勢 3C 創造 (Creation) 協働 (Collaboration) 意思疎通 (Communication)

- (1) 自らの職責を自覚し、全教職員参画による学校経営の充実に努める。
- (2) すべての生徒が仲間とともに楽しく学習や活動のできる魅力ある学校づくりに努める。
- (3) 地域に根ざした特色ある教育活動(社会性を育てる)の推進に努める。\* (4)～(6)省略

### 4 実践の概要

次年度より地域の教育力を生かす拠点となるコミュニティ・スクールとし、地域学校協働活動を展開する予定である。これまでも地域の方々の協力を得ながら教育活動の充実に努めてきた。さらに学校への「支援」から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」へと発展させていく。そのために生徒たちが学校から地域へ出て、地域の方々とともに活動することを意図的・計画的に取り入れて実践している。また、校区内にある県立尾瀬高等学校とは平成15年度より連携型中高一貫教育校として、片品村立片品中学校とともに連携を図っている。

#### (1) 総合的な学習の時間

第1学年は「リンゴ農家から学ぶ」というテーマで摘花作業や収穫作業を手伝わしてもらい、育てることの大変さを実感することができた。また、農家の方への質問から仕事への情熱や考え方を知り、勤労観を高めることができた。

第2学年は「観光業から学ぶ」というテーマで職場体験学習や講話を実施した。観光協会から「高齢化が進み、いろんな作業が大変だ。」と聞き、地域行事等で協力する予定である。

第3学年は「森に学ぶ」というテーマで利根沼田森林組合の協力を得て、森林伐採(間伐)の様子を見学し、資源の有効活用について自分事として捉えることができた。





【第1学年：リンゴ園作業】



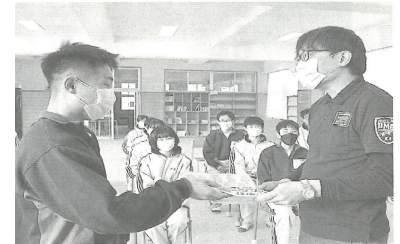
【第2学年：旅館での作業】



【第3学年：伐木作業】

(2) 生徒会活動 利根中学校から利根中央病院へ発信した「利根中→利根中プロジェクトS」

新聞記事に新型コロナウイルス感染症の対応に努めている利根中央病院の医師について掲載があった。この記事を読んだ生徒たちは、「私たちも何かできることはないか。医療現場で頑張っている方々に気持ちを伝えたい。」という思いから実行委員会が立ち上がり寄せ書きで応援することになった。



◎鈴木清医師(右)に寄せ書きと木製マグネットを贈る生徒たち  
—沼田市利根町通貝◎生徒たちが贈った新たな寄せ書きの写し

(3) 中高一貫

本校は片品村立片品中学校とともに、尾瀬高等学校との連携型中高一貫教育を実施している。この連携型中高一貫教育は、お互いに協力し合いながら教育課程の編成や教員・生徒間の交流等の連携を深める形で、ゆとりある学校生活の中で6年間の計画的・継続的な教育活動を展開し、個性や創造性を育てている。また、豊かな体験を生かして地域社会に貢献できる生徒の育成を目指している。連携型中高一貫教育の取組は以下の通りである。

○基礎学力の向上

- ア 生徒の実態から指導の重点を策定（各教科）及び授業改善
- イ 交流授業でのきめ細かな指導（T T・少人数指導）
- ウ 高校生ガイドによる自然観察会の実施
- エ 公開授業（3校ローテーション）の実施

○生徒指導・進路指導の充実

- ア 情報交換等で意思疎通を図った生徒指導
- イ 6年間を見通した進路学習の実施
- ウ 尾瀬地域学校保健委員会の実施
- エ 部活動交流、コーディネート・トレーニング講習会の実施



【自然観察会：武尊牧場周辺】

5 おわりに

生徒数の減少が加速化する中で、何が大切か話し合ったところ、職員が「一人の生徒にかかわる機会が圧倒的に多い」という考え方に意識転換したことで、生徒理解につながったり、生徒の活躍する場面を増やしたりするメリットが生まれている。今年度はコロナ禍であっても地域の方々とのつながりを大事にしながら協働活動を行ってきた。自分たちが少しでも貢献できることは何か考え実践したことで、自己有用感を高めることができた。また、信頼できる大人とのふれあいを通して人の温かさを感じ、他人を思いやる心も育まれている。今後において職員が意図的・計画的に取り入れた実践から一歩抜け出して、生徒が自発的に地域の方々とかかわりをもてるような姿を期待したい。さらには地域を愛し、担い手としての自覚が生まれることを願っている。

### Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

## 主体的に取り組み、豊かに表現できる児童の育成

～課題提示と見通しのもたせ方の工夫を通して～

神流町立万場小学校長 右井 義人

#### 1 学校の概要

本校がある神流町は群馬県の南西部に位置し、上信越自動車道藤岡インターから神流川を遡ること1時間あまり、奥多野の深い山々と清流に囲まれた小さな町である。平成15年4月に万場町と中里村が合併して「神流町」となり、本校も平成16年4月に万場小学校と中里小学校を統合し開校した。現在は、全校児童27名の小さな学校である。地域、保護者を始め、町も学校に対して大変協力的であり、子供たちも大変礼儀正しく何事にも真面目に様々な教育活動に取り組んでいる。

#### 2 主題設定の理由

本校の課題として、少人数がゆえに、安易に教員を頼ろうとする傾向があったり、自らの意見を表現することや他の意見を取り入れて新たな意見を見出すことに苦手意識があったりする児童が多いことが挙げられる。このことから、意見の広がりや考えを深める手立ての工夫を検討していく必要があると考えた。そこで、本年度より「主体的に取り組み、豊かに表現できる児童の育成～課題提示と見通しのもたせ方の工夫を通して～」と主題を設定し、研究を進めていくこととした。

#### 3 研究の基本的な考え方

本研究は3か年計画で進めていく。1年目は主体的に取り組むことができるよう、導入時の課題提示と見通しのもたせ方の工夫を研究する。2年目は豊かに表現することができるよう、自力解決や話し合い活動や、交流の工夫を研究する。3年目は1、2年目の成果と課題を踏まえ、3年間の研究を総括し、研究主題の達成を目指す。

今年度は本研究1年目として、主題前半に書かれている「主体的に取り組む」ことに重点を置き、導入時の課題提示と見通しのもたせ方の工夫を研究することとした。課題提示を工夫することで児童の学習意欲を高めること、見通しのもたせ方を工夫することで児童が主体的に学習へ取り組むことに繋がると考える。また、その際、「はばたく群馬の指導プランⅡ」を活用しながら授業づくりを進めることで、職員の共通理解の下、研修を進めることができると考える。

#### 4 実践例 単元名「自動車をつくる工業」（5年）

##### (1) 本時のねらい

日本の自動車企業がもつ優れた技術や外国との関わりに着目し、工業生産と貿易、環境を関連付けて考え、適切に表現することができる。

##### (2) 実践の概要

主な学習活動	指導上の留意点・ICTの活用
<b>1 本時のめあてをつかむ。 (5分)</b> T：この折れ線グラフはこの後どうなるのだろう。 S：アメリカは自動車大国だからもっと増える。 S：意外と東南アジアで増えるかもしれない。 T：ここ20年間の内に、多くの工場が中国で建てられた。 S：今まで全然なかったのに。	・トヨタの海外生産拠点について、アメリカやカナダと中国をはじめとするアジア諸国の工場数の推移が分かる折れ線グラフを提示する。その際、課題意識を生み出すために折れ線グラフの一部だけを提示しこの先どうなるかを予想させることで思考の揺さぶりをかけ

<p>S：アメリカより多くなっている。</p> <p><b>&lt;めあて&gt;</b> 前はアメリカに多かったはずなのに、中国に生産工場を作ったのは何のためか。</p>	<p>られるようにする。</p> <p>予想終了後、いつでも手元で資料が確認できるように折れ線グラフを学習支援ソフトで配付する。</p>
<p><b>2 課題を追究するために個で考える。（8分）</b> T：めあてに対する予想を考えてみよう。 S：人口が多くてたくさん売れるから。 S：日本から輸送するよりお金がかからない。 S：材料を安く使える。 T：売れるということは、欲しい人がいるのかな。 S：たくさんいるが、お金がなければ買えない。 S：工場が立つと仕事が増えるんじゃないかな。 S：日本の工場が出来れば日本の車づくりの技術を教わることができる。</p> <p><b>3 個の考えを全体で確認し合い、新たな気付きをもつ。（25分）</b> T：トヨタ側のメリットは何かな。また、何を大切にしているのだろう。 S：トヨタの利益。 T：世界で1位になるような会社であるトヨタは会社の利益だけを求めていてもいいのかな。 S：トヨタの利益だけではなくて中国にもメリットがないと続かないんじゃないか。 S：環境についても考えなくちゃ。 T：でも、海外で作ることによって車の品質は落ちないのかな。 S：品質は落とさないで作っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項（輸送コスト）を振り返らせることで、費用面におけるメリットについて考えられるようにする。</li> <li>予想の段階で支援が必要な児童にはヒントカード（トヨタ側のメリット：費用について・中国側のメリット：働き口の確保や現地のニーズについて）を学習支援ソフトで送信する。</li> <li>個人の予想を、ICT 端末を用いて集約することで、全員の考えを把握するとともに、児童同士で閲覧し合い、意見交流しやすくする。</li> <li>持続可能な工業生産にすることが必要であることに意識を向けられるようにするために、SDGs の13「気候変動に具体的な対策を」に関わる資料を提示し、二つの側面（トヨタと中国）のメリットだけでなく、環境面でのメリットがあることに気付けるようにする。</li> <li>国内工場と現地工場の写真を比べさせることで、日本以外で生産しても品質が落ちないということに気付けるようにする。</li> </ul>
<p><b>4 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容を振り返る。（7分）</b> T：めあてに対する答えをノートに書こう。</p> <p><b>&lt;まとめ&gt;</b> これからも続けられるバランスのとれた貿易をするため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてとの整合を意識してまとめることができるよう、再度めあてを確認する。</li> <li>まとめを自分の言葉で書くことができない児童には、穴埋め形式のヒントカードを学習支援ソフトで送信する。</li> </ul>
<p><b>&lt;振り返り&gt;（視点：分かったこと）</b> S：自分たちの利益を増やすために外国に工場を作ったと思ったけれど、それだけではないことが分かった。 S：お互いにメリットがあって、環境にも気を付けて貿易をしていることが分かった。</p>	

## 5 成果と課題

### ○成果

問いを生む導入場面において、グラフの一部を提示して予想させた後に、全体を提示したことは、児童の中にある既習事項の積み上げとのズレを生み、課題意識を高める上で有効であった。

### ○課題

めあてを立てる際の教師の視点を焦点化し、まとめとの統一を図れるとよりよくなる。

## IV へき地学校における生徒指導の実践

### 〈1〉小学校

## 豊かな人間性・社会性を育成する生徒指導

片品村立片品小学校長 小林 菊江

#### 1 地域・学校の概要

片品村は、尾瀬国立公園の群馬県側の入口にあり、尾瀬、日光白根山、武尊山、菅沼、丸沼など雄大な自然が広がっている。5つのスキー場も有し、スキーや登山やキャンプ、合宿等に多くの観光客が訪れている。寒冷な気候を利用して、大根やトマト、花豆等を「片品ブランド」として売り出している。近年、学校のすぐ隣に道の駅ができ、県外からの観光客でにぎわっている。

本校は村内4校が統合し、平成28年に村で唯一の小学校となった。今年度は児童数127名学級数8学級のへき地校である。統合で村全体が校区となり、児童は日光白根山の麓の丸沼地区や、尾瀬の入口の戸倉地区、武尊山の麓の花咲地区等から、10系統に分かれ、スクールバスで通学している。また令和3年度より片品村学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育むことを目指している。

#### 2 生徒指導の方針及び努力点

(1) 「あいさつ、返事、感謝の言葉が進んで言える子」の育成

- ① 児童が自己肯定感・自己有用感をもつような言葉かけや温かい誠実な指導を心がけるとともに、お互いを認め合う「かたしな山活動」を推進する。
- ② 6年生を中心に縦割りの団活動を計画的に実施し、児童同士の交流を通して、主体性のある子を育てていく。
- ③ 「特別な教科道徳」の時間の充実を図り、授業改善とともに道徳的実践力を育成していく。
- ④ 外部講師など地域人材と出会う場面を取り入れ、社会性を養うとともに、コミュニケーション能力を高める。

(2) 全教職員と児童で、いじめのない学校づくり

- ① 毎月1回の「にこにこアンケート」や「生徒指導カルテ」を有効活用し、いじめや不登校等の未然防止・早期発見・早期対応と問題行動等の防止に努める。また生徒指導委員会、職員会議において情報と対応の共有化を図り問題を一人で抱え込むことなく組織的に取り組めるようにする。
- ② いじめ防止活動計画に基づき、児童会企画委員会を中心に、児童主体のいじめ防止活動を実践していく。また、常時指導とともに人権教育強化月間といじめ防止強化月間を関連付けて取り組む。

#### 3 実践の概要

(1) いじめ防止活動

代表委員会（構成：各委員会委員長、3年生以上の各学級委員）において、今年度の学校・いじめ防止スローガンを「笑顔であいさつしだれもが気持ちよくすごせる学校」と決め、6つの委員会ごとに内容を工夫して、主体的な活動に取り組んでいる。

企画委員会では「いじめ防止集会」や「あいさつ運動」の実施、体育委員会では運動会での団競技での工夫、図書委員会では「い



【いじめ防止集会オンライン】

じめについて考える本の紹介」など、読書を通していじめについて考えることができるよう工夫した。

また、放送委員会では学級毎に協力して解けるようなクイズの出題、保健給食委員会では各学級でいじめ防止の呼びかけや「心のポスト」設置、環境美化委員会では優しい気持ちで生活できるように環境を整えようと、「花いっぱい運動」に取り組んだ。



【あいさつ運動】

## (2) お互いを認め合う「かたしな山活動」

環境美化委員会が中心となり、困っている友達を助けたり自主的に良いことをしたりした児童の紹介を行い、愛他的な活動の活性化を図っている。さらに学級でも帰りの会で、「友達にしてもらったうれしかったこと」の発表を通して、その内容を花びら型の用紙に書いて貼る「かたしな山」運動を実施している。この活動では、友達だけでなく教職員についても、表彰や紹介がおこなわれている。



【かたしな山活動】

## (3) 縦割り団活動

運動会で対抗する3つの団を活用し、昼休みに全校児童で活動している。企画委員会が中心となり、今年度はこれまでに「しっぽ取りおにごっこ」や「だるまさんが転んだ」を企画・実施した。コロナ禍のため、学年を越えた交流がなかなか難しい状況であったが、校庭での活動となるため、児童たちは存分に楽しむことができた。



【みんな友達会】

## (4) 地域人材活用

生活科や総合的な学習の時間で地域学習を進める際には、専門家として地域の方に講師をお願いし、学習を進めている。特に尾瀬学習等の地域の自然学習においては、片品山岳ガイド協会をはじめとするガイドの方々には、当日はもちろんのこと、事前事後学習においても指導していただいている。



【上下 尾瀬学習】

今年度は、6年生の尾瀬サミット発表に向けての学習のまとめや、5年生の他校生に向けてのオンライン発表原稿作り、3・4年生の白根山学習におけるクイズ作りなどで指導をお願いし、児童に直接アドバイスをしていただき、聞き手を意識したまとめができた。また、全学年対象の読み聞かせや、2年生のむら探検講師、3年生の地域の農家に出向いてのりんご栽培学習、4年生の福祉事業所と連携した福祉体験学習なども、長く継続している取組である。



このように授業において地域人材を活用し関わりをもつことで、児童たちは学校だけではない社会のルールやコミュニケーションの方法を知り、次第に身に付けていくようになる。



【りんご栽培学習】

## 4 おわりに

地域の自然環境や人的環境に恵まれた本校児童は、優しく伸びやかに育っている。反面、粘り強く取り組むことや困り事の解決や克服のために先を見通して取り組むことが苦手であり、学校課題である。

ますます混迷の度を深めるであろうこれからの社会に向かっていく児童たちに、家庭・地域と協働しながら、自らの意志で未来を切り拓くための土台としての多様な引き出しを作ってやるのが、学校の責務であると考え。子供一人一人の成長に寄り添いながら、豊かな人間性・社会性を身に付けた児童の育成を、今後も目指していきたい。



【読み聞かせ】

## 〈2〉 中学校

### 少人数を生かし、一人一人が主役の学校づくり

南牧村立南牧中学校長 赤石 啓寿

#### 1 地域・学校の概要

南牧村は、群馬県の南西部にあり、西は長野県との県境にある。標高800～1400mの険しい山々に囲まれた山間部である。美しい自然を背景に東西に流れる南牧川に沿って家が点在し、人々が生活を営んでいる。昭和30年3月、尾沢、月形、磐戸の三村が合併して南牧村が誕生した。当時は、こんにゃく栽培を中心に養蚕、林業等が盛んで大多数が農家であったが、農林業の衰退と共に過疎化、高齢化が進み、人口も減少している。

三年前から小中学校がコミュニティ・スクールとなり、地域の方が積極的に学校に関わり支援してくださっている。また、令和6年度の義務教育学校開校に向けた準備も着々と進んでいる。生徒は全体的に素直で穏やかな子が多く、真面目によく努力する。またふるさとを大切に思う気持ちが高い。その一方で、人間関係の固定化や序列化が見られたり、大きな集団や大舞台での経験不足などから、新しいことにチャレンジすることにためらいが見られたりするという課題もある。なお、生徒指導上の問題はほとんど見られず、学校全体が明るくほのぼのとした雰囲気をもっている。

#### 2 本年度の生徒指導の方針

##### (1) 目標

本校の学校教育目標は、「共に学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成」、生徒指導の目標は「一人一人が個性を輝かせ、生き生きと学ぶ学校づくりの推進」である。

##### (2) 本年度の重点

上記のことを踏まえ、今年度は「生徒指導の三つの機能」である①自己決定②自己存在感③共感的人間関係を重視し、次の二点を重点として生徒指導に取り組んでいる。

①少人数を生かす（全校生徒10名という状況は、マイナス面が多いという印象があるが、見方を変えれば「少人数だからこそできること」、「少人数でなければできないこと」があるはずで、このことをメリットと捉えて指導にあたる）

②生徒に任せる（少人数ゆえに教師の手が入りすぎてしまうことが生徒の自立や成長を妨げてしまうことがある、という認識に立ち、あくまでも生徒の主体性を最優先にした指導にあたる）

#### 3 具体的な取組例

##### (1) 一貫校に向けての小中合同ワークショップ

4月に、「新しくできる義務教育学校をどんな学校にしたいか」というテーマでワークショップを行った。小中混合の小グループに分かれて、自分たちが使う学校施設がどんなものだったらよいか、自由な発想で意見を出し合い、最後にグループで出された意見を全体で発表して共有するという活動だった。新しい学校建設に自分たちの意見が反映されるチャンスということで、子供たちは目を輝かせながらそれぞれの夢を話っていた。



義務教育学校に向けての小中合同ワークショップ

##### (2) 2年技術科「生物育成」の授業から

担当教員と2年生徒とでじっくり話し合った結果、今年度はこの単元で学校菜園を利用しての野菜栽培と養鶏の実習を取り入れることに決まった。村内で農園を営む方を講師に迎え、野

菜作りのコツや養鶏の基礎知識などを指導していただいた。育てたい野菜は生徒同士の話し合いで決め、苗植えに取り組んだ。また、採れた野菜の活用方法なども話し合い、村内の飲食店で紹介してもらいながら活用していただくことになった。養鶏は村内の大工さんの支援をいただき、自分たちの手で小屋を作ることから始めた。10月から飼育が始まり、自分たちで当番を決めて世話をし、産んだ卵の活用方法についても話し合っている。



養鶏実習に向けた鶏小屋の建設

### (3) 隣町の中学校と交流授業

2年生6名が校外学習で埼玉県川越市に行き、学習したことをパワーポイントにまとめた。発表する相手が身内だけではモチベーションが上がらないため、リモートで隣町の同級生に伝えるという課題を設定し、同時に相手校の校外学習の様子も聞くことで互いの交流と見聞を広げることができた。このような交流活動は昨年度から積極的に進めており、他教科においても実践を重ねている。生徒にとって見知らぬ相手との交流はとても新鮮で、よい刺激となっている。



隣町の中学校と交流授業

### (4) 英語スピーチ発表会

英語弁論大会地区予選の校内代表決りを、希望者や一部の生徒で実施するケースが多いが、本校では代表選考という形ではなく、一人一人が全校生徒の前で英語でプレゼンを行うという発表会形式で実施している。それぞれの学年の既習内容や実力に応じて1年生は自己紹介、2年生は学校紹介というテーマで原稿を作成し、タブレットで映像を見せながら発表させた。生徒は事前にしっかりと練習を重ね、原稿の棒読みではなく、時々観客に問いかけるなどしながら自分の言葉で発表することができ、時折笑いで盛り上がるなど楽しく分かりやすい発表会となった。生徒はこのような経験を重ねることで、自信を身に付けることができている。



英語スピーチ発表会

### (5) 全員参加による駅伝練習

駅伝大会の選手決めは、長距離走が得意な希望者の中から選ぶのが一般的だが、本校では毎年担当教師と生徒との話し合いで参加するか否かを決めており、全員で参加することになることが多い。長距離走が得意な生徒は少ないが、大変なことに敢えてチャレンジし、全員で心を一つにして襷を繋ぐことに価値がある、というところからスタートしている。夏休みから2カ月以上にわたって、決して無理することなく、各自の体調と相談しながら練習に臨み、みんなが互いを励まし合いながら、当日も走りきることができた。これは生徒にとって何物にも代えがたい貴重な体験となったはずである。

## 4 おわりに

生徒指導において本校職員が心掛けている点についてまとめると、①生徒一人一人に役割を与え、責任感、成就感を持たせる ②生徒からの企画、提案を促し採用する ③「自治」の意識の涵養を図る ④運営を生徒に任せる（教師は方向付け、動機付け、裏方役に） ⑤全員に参加意識を持たせ、一人も取り残さない ⑥人前で発表するなど、自己表現の場をできる限り設定する ⑦自己啓発のきっかけとなる体験活動を取り入れる、などである。

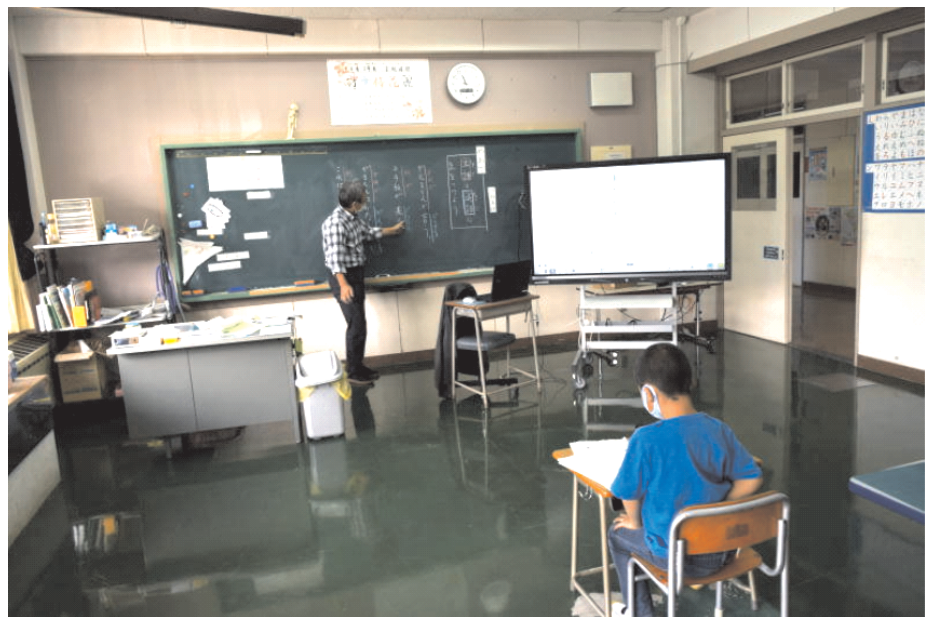
まだまだ課題はたくさんあるが、今後も「少人数だからこそできること」、「少人数でなければできないこと」を合い言葉に、生徒主体の学校づくりを進めていく所存である。

## 第 2 部

### へき地学校教員研修のあゆみ



藤原小学校の児童



藤原小学校の授業の様子



# I 令和4年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那中学校長 田部井 由美子

## 1 令和4年度へき地学校

令和4年度の県内へき地学校について、加盟校数は前年度より2校減の30校である。また、昨年度より児童生徒数は214名減の2,041名、教職員数は10名減の381名となった。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の小学校で2.2%、中学校で0.7%となった。

役員の選出や研究発表等は県内を3つのブロックに分けてローテーションで行ってきたが、加盟校の減少による学校数の不均衡を改善するために、令和3年度に続き4年度も3ブロックの学校数の調整を行った。

## 2 活動方針

- (1) 研究主題 「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」  
～へき地・複式・小規模校の特性を生かした  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～
- (2) 活動方針
  - ① 本連盟は、群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
  - ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
  - ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。
- (3) 活動内容
  - ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深めるため、広報「県へき連」を発行している。
  - ② 毎年、へき地教育研究大会を、県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催している。令和4年度はみなかみ町立藤原小学校を会場として開催した。
  - ③ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力して、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に努めている。

## 3 研究・研修の概要

- (1) 関東甲信越へき地教育研究大会山梨大会 8月12日(金) 山梨県  
感染症対策のため、書面開催
- (2) 第71回全国へき地教育研究大会山形大会 9月29日(木)・30日(金) 山形市等  
感染症対策のため、来場型とオンライン型の同時開催
- (3) 第71回群馬県へき地教育研究大会 10月18日(火) Cブロック(北毛)  
みなかみ町立藤原小学校を会場に実施。
- (4) 第48回全国へき地教育研究連盟研究推進協議会 11月29日(火)・30日(水) 東京都
- (5) 広報「県へき連」第90号発行
- (6) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第71集発行

## Ⅱ 第71回群馬県へき地教育研究大会

### 〈1〉概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那中学校長 田部井 由美子

1 趣 旨 へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。

2 テーマ 『ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成』  
～へき地・複式・小規模校の特性を生かした  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～

3 期 日 令和4年10月18日(火)

4 会 場 みなかみ町立藤原小学校

5 参加者 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会 みなかみ町教育委員会  
西部教育事務所 吾妻教育事務所 利根教育事務所 群馬県へき地校校長

### 6 日 程

9:00	9:30	9:50	10:50	11:35	12:00
受付	開会行事	全体会	研究協議	学校公開	情報交換

7 開会行事 あいさつ 群馬県教育委員会教育長 群馬県へき地教育振興会会長  
みなかみ町教育委員会教育長 群馬県へき地教育研究連盟理事長

### 8 研究協議

小学校 (Bブロック)	嬭恋村立西部小学校 校長 小池 裕生 ○テーマ 「学校の特色を生かした教育活動の推進」 ～地域の人材や伝統を活かして～
中学校 (Aブロック)	高崎市立倉渕中学校 校長 大塚 浩文 ○テーマ 「自ら課題を見つけ、対話を通して より深い学びを得ようとする生徒の育成」 ～ICT機器の効果的な活用や、対話的な学習活動の工夫を通して～

9 学校公開 1年生 国語 土屋 成史 教諭 (1年教室)  
2年生 国語 星野 伸夫 非常勤講師 (2年教室)  
4年生 算数 木村 彩奈 教諭 (4年教室)  
5年生 算数 川上 正人 非常勤講師 (5年教室)  
6年生 理科 佐藤 和男 教諭 (6年教室)

### 10 情報交換

## 〈2〉 提案要旨

### 《小学校班》

# 学校の特色を生かした教育活動の推進

～地域の人材や伝統を活かして～

嬭恋村立西部小学校長 小池 裕生

## 1 学校の概要

嬭恋村は、日本武尊が東征の帰路、鳥居峠に立ち、海の神の怒りを静めるために海に身を投じた愛妻の弟橘媛を「吾嬭者耶（あづまはや）」と追慕した古事にちなんでいる。上信越高原国立公園の一角を占め浅間山、四阿山、白根山などの山々に囲まれた高原地帯には万座温泉、鹿沢温泉など数多くの温泉が湧出し、ゴルフ場や別荘地、スキー場、キャンプ場などのレジャー施設も数多く存在する。西部小学校は、南に浅間山、西北には四阿山と白根山をのぞむ、嬭恋村の西部4地区（大前・大笹・田代・干俣）を学区としている。学区内の世帯数は、約900戸、人口約2,500人で、その約3割が給料生活者、約7割が農家である。高原野菜の出荷期（観光シーズン）にはトラックや観光バス等の往来が激しい。冬場はスケートやスキーが盛んな地域である。平成27年4月に西小学校・田代小学校・干俣小学校の3校が統合して、嬭恋村立西部小学校が開校となった。

## 2 実践の概要

### (1) スケート授業〈主に旧西小学校・旧干俣小学校の伝統〉

スケート授業は、昭和30年代から40年代に旧西小学校に勤務していた 宮崎 守 先生（「田んぼスケート」の考案者）が、田んぼに水を張ってスケートの授業をすることを思いついたこと始まる。「田んぼリンク」の設営や管理には、保護者や地域の人々の理解と協力があり、学校での熱心な指導と合わせて、児童の活発な活動に結びついた。その結果、黒岩彰・黒岩康志・黒岩宗久・黒岩敏幸などオリンピックや国際大会で活躍した選手たちの土台となった。平成10年頃からは、嬭恋高校スケートリンクを利用した授業となったが、宮崎今佐人・土屋良輔などのオリンピックで活躍する選手も輩出している。

昨年度は、嬭恋高校スケートリンクで11月30日（火）より2月17日（木）まで、各学年4回ずつ実施予定計画されていたが、1月下旬から新型コロナ感染防止対策のために中止となり、各学年3回程度の実施であった。スケート授業の講師には、保護者や地域の指導者の方々の協力があり、講師の方々の指導を受けながら、児童がスケートに親しむ機会となっている。また、スケート靴のヒモ縛りなどの授業準備にも、保護者の方々の支援をお願いして、複数体制で授業がスムーズに進められている。



### (2) 安全教育〈主に旧田代小学校の伝統〉

安全教育は、旧田代小学校が、昭和44年からの2ヶ年の群馬県教育委員会の「交通安全教育」の指定を受けたこと、昭和45年の自転車部の設立と「交通安全子供自転車大会」への出場に向けた活動に始まる。旧田代小学校で始まった交通安全意識の高揚を図り、自転車の安全走行技能を

向上させることを目的とした自転車部の活動は、昭和49年に「交通安全子供自転車群馬県大会」で初優勝して全国大会に出場して以来、29年連続群馬県大会優勝・全国大会出場を含む、40回の群馬県大会優勝・全国大会出場を果たしている。この活動は、半世紀にわたり、児童・学校・地域が一体となり歴史と伝統を引き継いできた。「交通安全意識の高揚を図り、自転車の安全走行技能を向上させる」という活動意義のもと活動を継続させてきた孺恋村西部地区の特色の一つとなっている。

令和4年7月1日には、平成27年4月に統合した西部小学校の前進となる旧西小学校、旧田代小学校、旧干俣小学校からの流れを継続した長年にわたる安全指導への取組が評価されて「令和4年安全功労者内閣総理大臣表彰」を受賞した。この表彰には、旧田代小で始まった「交通安全教育」に加えて、西部小学校として、浅間山の噴火を想定した引渡し訓練など防災事業の実施など、学校と保護者、地域が連携して安全指導や村民一丸となった防災・安全対策の取組による、死亡事故等の大きな事故の未然防止が顕著な功績として挙げられている。

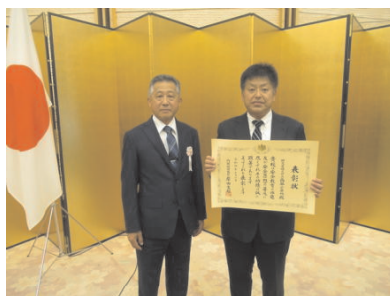
本年度は、安全主任を中心に職員全員が、担当する地区まで児童と一緒に下校しながら通学路の点検を年1回実施している。また、新入生に対して警察と地域安協婦人部の協力により講話（紙芝居）を実施、4年生に対して自転車の乗車講習（長野原署交通課依頼）等の交通事故防止に努めている。さらに、土砂災害を想定した避難訓練や引き渡し訓練を行い、笑顔で学校生活を送れる安心、安全な学校づくりを目指している。



### 3 まとめと今後の課題

孺恋村の誇れるスポーツであるスケートに親しみ、冬場の体力づくりに繋げることは、長年続けてきた村の大切な伝統となる。宮崎先生が、冬場に外で児童を活動させたいと考えて「田んぼスケート」始めた理念を継承して、児童が冬の寒さに負けず、屋外で友だちと一緒に活動する楽しさを味わったり思い出をつくりたりするような活動を、スケート授業を通じて続けていきたいと考えている。

安全教育に関しては、昨年度も、安全点検、交通安全教室、通学路点検、避難訓練（土砂災害）、避難訓練（地震・火災）、引き渡し訓練等を年間計画に基づき実施している。また、毎月16日に実施される西吾妻安全・安心まちづくり連絡協議会による「登校時における児童見守り活動」も時期により縮小しながら実施された。コロナ禍により、計画内容の変更や縮小を余儀なくされた活動もあったが、概ね年間を通じた安全への指導は進められた。今後も、児童や保護者の安全に関わる意識の高揚に繋げられる取組を継続していきたい。



## 《中学校班》

# 自ら課題を見つけ、対話を通してより深い学びを得ようとする生徒の育成

～ ICT 機器の効果的な活用や、対話的な学習活動の工夫を通して～

高崎市立倉渕中学校長 大塚 浩文

## 1 学校の概要

本校は、昭和36年に開校し、今年で62年目を迎える全校生徒71名の県1級へき地校である。実りある豊かな自然環境の中で、平成18年に地元の木材をふんだんに使った木造校舎を新築し、この校舎で郷土愛を育み、地域の方々と連携・協働しながら様々な教育を推進している。

平成30年4月、校区内に「くらぶち英語村」が開村し、英語を日常的に活用する力を身につけるため全国各地から集まった山村留学生（以下留学生という）が本校に毎年10数名通うことになった。これまで地元唯一のこども園、小学校からエスカレーター式に進学してきた生徒たちにとって、英語村の留学生の存在は、人間関係を築くための新しい風となっている。

また、平成31（令和元）年度から約2年間、産学官 ICT 連携事業研究協力校に指定され、授業において ICT 機器の活用に取り組んできており、そのアドバンテージを生かしながら、引き続き生徒の学びを進化させようとしているところである。

## 2 実践の概要

### (1) 主題設定の理由

新学習指導要領では、各教科の目標及び内容が育成すべき資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に沿って再整理された。そして、そのことで「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進し、「指導と評価の一体化」が実現されやすくなることが期待されている。また、GIGA スクール構想において一人一台端末を活用することが令和の教育のスタンダードとなりつつあり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立を図る上でも有効なことから、授業内外での積極的な活用が求められている。

本校では、平成31年から産学官 ICT 連携事業でいち早くタブレットに触れることができたこともあり、各教科の授業でタブレットを活用した授業実践がさらに増えた。また、コロナ禍で限定的な条件ではあるが、ペアやグループなど様々な学習形態での活動が見られた。一方、生徒が「深い学び」を得られたかどうかについては検証が難しく、「指導と評価の一体化」という点でも、まだまだ課題が残った。

そこで、前年度の課題の解決を意識しながら、今年度も上記の主題、副主題で研修を進めることとした。

### (2) 実践の内容

#### ① 実践1：社会科「多面的に考えるための思考ツールの活用と対話的な学習活動」

ア 自分の考えを伝え、相手の意見を聞く姿勢をつくるため、導入の場面においてペアで既習事項について伝えあい、全体で共有する活動を取り入れる。

イ ○○を多面的に考えることができるように、ロイロノートの思考ツールを使ってわかったことをまとめさせる。今回は、Xチャートを用い、アフリカ州の「歴史」「産業」「資源」「その他、自然」の4つの視点で多面的に考えてみた。

ウ 学習の積み重ねを実感しながら思考の深まりに気付いたり、単元のまとめの活動でより主体的に深く考えることができるようにするために、自分の知っていることや授業を受けてわかったこと、友達の意見をそれぞれカードの色分けをしながらロイロノートに記録、分類させる。

エ 多様な見方、考え方に気付かせるため、資料の読み取りを個人で行った後、グループで内容を共有する。

オ ロイロノートの活用の仕方が、試行錯誤しながら学習したことを整理するためのツールとして有効であった。

② 実践2：英語科「単元の見通しと振り返り、そして対話的な学習活動について」

ア 振り返りシートをロイロノートで管理する。

振り返りシートには、単元の初めに、何を学ぶのか（LESSON GOAL）を知り、どのように学習を進めていくか（LESSON PLAN）を見通すことで、自分のやるべきことが前もってわかる。また、生徒は振り返りが記入できるようにチェック項目や自由記述の欄があり、教師のコメントも入れられる。

イ 4人グループを作りながら、その中でペアの組合せを変化させて繰り返し取り組むことで、課題に対する表現をレベルアップさせていく。さらにグループ外へも移動をしたり、ALTとの会話もしたりしながら、さらに豊かな内容に進化させる。

ウ 振り返りシートをロイロノートで管理することは、生徒一人一人が自身の現状を把握できることや教師も「評価と指導の一体化」を進める手立てとして有効だった。

エ ペア、グループのバリエーションを増やし、対話の機会を増やすことは、学習内容の理解を深めたり、多様な視点で表現したりする上で有効であった。

### 3 まとめと今後の課題

(1) まとめ

① 個人の知識や考えだけに留まらずペアやグループなどで対話を増やすことで、表現が徐々に豊かになり、生徒が深い学びに向かっていると感じられた。また、ロイロノートの思考ツールを使うことで、多様な考えや意見を「広げる」「まとめる」「整理する」ことにつながる実践ができた。そして、生徒同士で説明することで、自他ともに学びを深めることができたと感じられる。

② 板書だけでは間に合わない教材や視覚に訴える教材を必要な場面で速やかに提示することができた。

③ ロイロノートの提出箱機能を活用し、生徒一人一人の考えを短時間で把握することができた。

④ ICT機器を活用することで生徒同士の考えの共有や意見交換が今まで以上に早く、簡単にできるようになったことで、級友の意見や考えを自己の学びにつなげる機会が増えている。

(2) 今後の課題

① 全ての授業に共通する課題として、対話の際「相手を見て話す」「聞くときはタブレットを操作しない」「マスクでもはっきり聞こえる声で」など、今以上に共通理解を図って指導していけるとよい。

② 永遠のテーマである「深い学び」へどう授業を組み立てていくかという点ではまだ課題がありそうである。「深い学び」の定義を明確にし、目指す生徒の姿を意識しやすくしたい。

③ 生徒の対話から授業を進め、教師が主導しすぎずなるべく生徒主体の授業を心がけたい。

## Ⅲ 第71回全国へき地教育研究大会（山形大会）

### 〈1〉概要報告

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立多那中学校長 田部井 由美子

第71回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、全国へき地教育研究連盟、山形県教育委員会等の主催により、令和4年9月29日(木)～30日(金)の2日間にわたって山形市を中心に開催された。コロナ禍3年目となる本大会は、参集とオンラインによるハイブリッド型の大会となった。さらに本大会は、第38回へき地教育東北ブロック研究大会山形大会、令和4年度山形県へき地・小規模学校教育研究大会としての位置づけでもあった。群馬県からはA～C各ブロック2名、計6名の校長が山形県での大会に参加した。このほかにオンラインでの参加者もいた。

#### ◇大会前日（9月28日）「全国へき地教育研究連盟秋季総会」

令和4年度秋季総会が、9月28日(水)15時よりホテルメトロポリタン山形で開催された。第10次長期5か年研究推進計画について素案が提案され、今後の方向性が示された。

#### ◇大会第1日（9月29日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、山形大会実行委員長の開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を傾聴し、主催者として、文部科学省初等中等教育局視学官、山形県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があった。

基調報告では、まず温泉敏：全国へき地教育研究連盟研究部長から、第9次長期5か年研究推進計画4年次の概要説明があり、続いて長谷部徹：山形大会実行委員会研究部長から、山形県の取組に関する報告がなされた。

講演会は、「加茂水族館 クラゲ展示の軌跡」と題して、加茂水族館クラゲドリーム館館長である奥泉和也氏の講演があった。

講演終了後、次年度開催地である兵庫県大会実行委員長の挨拶や大会旗の引継が行われ、全体会を終了した。

午後は、ホテルメトロポリタンと山形国際ホテルの2会場にて、全国第9次長期5か年研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、東北ブロック1校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

#### ◇大会第2日（9月30日）「授業公開・分科会」

2日目は、山形県下8小中学校(A山形市立山寺小中学校、B山形市立大曾根小学校、C尾花沢市立福原小学校、D真室川町立真室川北部小学校、E大蔵村立大蔵中学校、F川西町立玉庭小学校、G鶴岡市立鼠ヶ関小学校、H鶴岡市立温海中学校、)で授業が公開され、その後A～Hの8分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

## 〈2〉分科会報告

### A分科会

## 自立した児童生徒の育成

～個が活きる協働学習を通して～

群馬県教育委員会義務教育課 丸山 剛史

1 会場校 山形市立山寺小中学校（学級数8 児童数56名 職員数27名）

### 2 地域・学校の概要

「郷土山寺を愛し、社会に役立つ人間の育成」を教育目標に掲げ、歴史・文化・自然に恵まれた環境の中で、小中併設校のよさを生かして、小中一貫教育の推進、少人数指導の充実、地域とともに歩む学校づくりに取り組んでいる。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

令和2年度 一年次 個に応じた指導、個の学びを支える授業作り

令和3年度 二年次 協働（他者とかがわり合って個の学びを広げる授業作り）

令和4年度 三年次 自立（学びを伝え合い、個の学びを深める授業作り）

※これまでの実践を踏まえながら個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。

#### (2) 公開授業

山寺伝統芸能活動発表、中2年生国語科 【オンライン配信授業】

### 4 所感

山寺伝統芸能活動は、小学校、中学校が学年を越えた強いかかわりの中で、一体となって創りあげる発表となっていた。国語科の授業では、地域の飲食店の店主をゲストティーチャーに迎え、地域に根ざした学びと生徒同士の交流を中核とした授業実践を行っていると感じた。

### B分科会

## 確かな学力を育む授業づくりを目指して

～新しい時代に必要な資質・能力の育成と学習評価の充実～

草津町立草津小学校長 水出 宣広

1 会場校 山形市立大曾根小学校（単式4、複式1、特支1 児童数51名、職員数16名）

### 2 地域・学校の概要

山形駅から西方約9km、山形市と山辺町との境界付近、白鷹丘陵の麓に位置しており、令和4年度で学校創立121周年を迎える。里芋栽培や稲作、味噌造りなど、地域の自然や文化を生かした特色ある教育活動を展開している。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

○評価規準や評価方法について、校内研究の中で実施事例を検討・吟味してその妥当性や信頼性を高めるとともに、深い学びに至る学習過程を明確化して指導と評価の一体化を図る。

○児童が各教科等の見方・考え方を働かせながら深い学びに至る過程を構想し、その姿に近づけるための具体的な手立てなど、必要な学習活動や指導過程を明確化する。

#### (2) 公開授業 5・6年複式（算数）【オンライン配信授業】、2年（生活）

### 4 所感

複式による5・6年生の算数は、前を向いた9名の5年生と、廊下側を向いた6名の6年生の授業であった。指導時間が45分の半分になってしまうというマイナスの側面を、明確な指示で課題を与え、考える時間を十分にとることができるというプラスの要素に変えていた。また、2年生の生活科では、「こけしみこし」を振り返る場面において児童が自発的に教室内の道具をみこしに見立て練り歩く姿もあった。教師と児童、児童同士の信頼関係を垣間見ることができた。



## C分科会

# ふるさとを愛し、探究する子供の育成

～ふるさと学習を核にして、自分の考えを広げ深める単元づくり～

上野村立上野小学校長 梯 直人

1 会場校 尾花沢市立福原小学校（学級数8 児童数89名 職員数20名）

### 2 地域・学校の概要

尾花沢市は、日本三雪に数えられる豪雪地帯であり、花笠踊り発祥地としても有名な地域である。福原小学校は尾花沢市の最北端の農村地帯に位置し、平成26年度に名木沢小学校、福原中部小学校、寺内小学校、荻袋小学校が統合して開校した小学校である。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

- ① 研究の視点（主体的な学びを支える手立ての工夫、自分の考えを広げ深めるための対話的な学びの工夫）に沿って単元計画を作成し、授業を実践する。
- ② 「思考の素、子供の言葉」を観点として、子供たちの学びを見取っていく。

#### (2) 公開授業（参集型、オンライン型の同時開催）

- ① 1年、2年 生活科 3年～6年 総合的な学習の時間 特支 総合的な学習の時間

### 4 所感

地域に積極的に向き、地域の方々と実際に触れ合う実体験を基にした学習が展開されていた。地域理解から地域愛、地域貢献へというふるさと学習の流れがあり、参観した5年生の授業でも、地域おこしを成功させたいから話し合いたい、調べたい、という子供の強く思う姿が見られた。

## D分科会

# 学ぶ喜びを実感する授業の創造

～対話から生まれる深い学び～

上野村立上野小学校長 梯 直人

1 会場校 真室川町立真室川北部小学校（学級数6 児童数48名 職員数18名）

### 2 地域・学校の概要

真室川町は、山形県最北部に位置し、校区の北側は秋田県と隣接している。また、町内の87%が森林に覆われた林業と農業が盛んな地域である。真室川北部小学校は、平成19年4月に釜淵小学校、及位小学校、大滝小学校、小又小学校が統合して開校し、現在、森林学習を核としたふるさと学習が行われている。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

- ① 必要な情報を整理し、解決に向けて分析しながら問題解決する力の育成
- ② 根拠を明確にしながら、かかわりの中で考えを深める力の育成
- ③ 知識を再構築しながら、理解の質を高め、既習事項を活用する力の育成

#### (2) 公開授業（参集型、オンライン型の同時開催）

- ① 3、4年複式 算数 5、6年複式 算数

### 4 所感

複式学級における効果的な学習指導の在り方を目指し、児童への単元追究課題と一単位時間の達成すべき技能目標の明確化、ICTの積極的活用、一年生からの思考ツールの活用などが行われていた。生活の中で既習事項を活用したり、活用できる喜びを感じたりしている児童が増えているという話についても素晴らしいと感じた。

## E分科会

# ともに学びあい、深め合う授業の創造

～生きてはたらく確かな学力の育成を目指して～

沼田市立多那中学校長 田部井 由美子

1 会場校 大蔵村立大蔵中学校（単式3、特支2 生徒数85名 職員数23名）

### 2 地域・学校の概要

大蔵村は山形県のほぼ中央に位置し「最も美しい村連合」に加盟。3中学校を統合した本  
学校では、地域や家庭と一体となって地域活性化に向けた活動に積極的に取り組んでいる。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

協働的な学びを中核に据え、生徒が他者と関わりながら対象世界を広く学び、自分のこれま  
での知識や経験と結びつけると同時に、これからの人生につなげていく力の育成を目指す。

#### (2) 公開授業 <総合的な学習>

美しい村プロジェクト学習2022『持続可能な村づくりを考える』

～30年後も「美しい村」であるために～

### 4 所感

村役場や地域の方々の協力のもと、ふるさとへの愛を育む特色ある教育課程が編成され、生  
徒は協働学習を通して課題を自分事として捉え、SDGs や実行性を意識した提案を行っていた。  
コミュニティ・スクールの教育力の大きさを改めて実感した。

## F分科会

# 学びをつなぎ、ともに高め合う子どもの育成

～ICTを活用し、主体的・対話的な活動を通して～

中之条町立六合中学校長 桑原 武史

1 会場校 川西町立玉庭小学校（学級数3 児童数12名 職員数10名）

### 2 地域・学校の概要

川西町玉庭地区は米沢市の北部に位置し、伊達家の国替えや上杉鷹山とともに上杉家臣団が移  
り住んだという歴史があり、草木塔や曲がり屋、享保雛など多くの文化財も残っている。また、  
中山間地の豊かな自然を生かした米、そば、野菜、むくり鮎での地域おこしも盛んである。玉庭  
小は小中併設校、単独校と形を変えながら、今年創立119年を迎える。「地域の子どもは地域で  
育てる」という教育に対する意識は高い。地域の特色を生かし、地域と連携した教育活動を展開  
している。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

主体的で対話的な課題解決学習を通して、児童が知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現  
力を高めることを目指す。ICTを活用して学びをつなぎながら見通しをもって考え、分かりやす  
く表現する児童、ともに思考を高め合う児童を育成する研究を、①算数科を主とした複式授業、  
②ふるさと学習、③遠隔教育の3つの場面で推進している。

#### (2) 公開授業

5・6年（複式）算数科 及び 3年外国語活動

### 4 所感

5・6年複式の算数では、各学年の学習リーダーを中心に主体的な学びが展開されていて、複  
式授業の質の高い実践に感心させられた。3年の外国語活動は、町内小学校との遠隔授業であつ  
た。川西町では数年前から取り組んでおり、児童が慣れた様子で意欲的に交流している姿が印象  
に残った。ICTが効果的に活用され、少人数のデメリットをカバーしていた。

## G分科会

# 自ら考え、伝え合って学びを深める子どもの育成

～少人数学級における伝え合いのある授業づくり～

高崎市立倉渕小学校長 飯島 好行

1 会場校 鶴ヶ岡市立鼠ヶ関小学校（学級数8 児童数57名 職員数16名）

### 2 地域・学校の概要

明治7年に開校した歴史のある学校である。二千年の歴史を語る老松の生える景勝弁天島、日本三大関所の一つで源義経とゆかりの深い古代鼠ヶ関址、戊辰の役の古戦場址等、名所旧跡に富んだ港町である。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

- 課題に興味をもち、粘り強く取り組み、自分の学びを学習や生活に生かそうとする。
- 互いの考えを理解し、対話を通して解決しようとする。

#### (2) 公開授業（参集型、オンライン型の同時開催）

2年 算数科 及び 5年 総合的な学習の時間

### 4 所感

2年生の算数では自力解決をした後に、ペア、全体で話し合いをしたので、お互いの考えを交流できていた。5年生の総合的な学習の時間は、地域の活性化のためのアイデアを実際に地域の人に実行してもらうために検討する地域に密着した授業だった。どちらの授業も学習リーダーを活用して児童主体の授業ができていた。

## H分科会

# 主体的に学び、自分の考えを表現できる、 心豊かな生徒の育成

～ICTを活用した探求型学習～

片品村立片品中学校長 星野 文隆

1 会場校 鶴岡市立温海中学校（学級数7 生徒数121名 職員数25名）

### 2 地域・学校の概要

平成10年に温海中学校、念珠ヶ関中学校、福栄中学校が統合し現在の温海中学校が開校した。統合時は400名近くいた生徒も、令和4年度には121名に減少しているが、学校目標でもある「豊かな心」を育むべく小規模校ならではの特色のある教育に取り組んでいる。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究内容

- 効果的なICT機器の活用
- 探究型学習の推進

#### (2) 公開授業

公開授業Ⅰ 3年 「数学 関数」

公開授業Ⅱ 2年 「総合的な学習の時間 地元特産の紅エビで温海のよさを発信しよう」

### 4 所感

地域人材との関わりや地域資源を生かした教育活動、ICTの効果的な活用を含め、小規模校だからこそできること、小規模校でもできること、様々な可能性があることを今回の研究大会への参加で改めて学ぶことができた。今後の学校経営に生かしていきたい。

# 資 料



# I 令和4年度 へき地学校資料

## <1>級別へき地学校数

令和4. 5. 1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A計 分校	B県全体 分校	A/B
小学校	4	3	3	6	1	0	0	17 0	299 2	5.7%
中学校	3	1	4	5	0	0	0	13 0	153 1	8.5%
計	7	4	7	11	1	0	0	30 0	452 3	6.6%

## <2>級別へき地本校分校別学校数

〈( )内は、内数で休校中の学校である。〉

令和4. 5. 1現在

級別 校種別		県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計
小学校	本校	4	3	3	6	1	0	0	17	17
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	本校	3	1	4	5	0	0	0	13	13
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## <3>級別へき地学校児童生徒数

令和4. 5. 1現在

級別 校種別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	A/B
小学校	404	499	88	290	5	0	0	1,286	90,252	1.4%
中学校	154	107	316	178	0	0	0	755	48,214	1.6%
計	558	606	404	468	5	0	0	2041	138,466	1.5%

#### <4>郡市町村別へき地学校数一覧

( ) 内は、内数で休校中の学校 上段：小学校 下段：中学校

令和4. 5. 1現在

No.	郡市	町村	学校数			内 訳								合計
			本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定						県準		
						4	3	2	1	準	特		計	
1	高 崎		2		2				1	1		2		2
			1		1				1			1		1
2	安 中		1		1								1	1
			1		1								1	1
3	多野	上野	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
4		神流	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
		計	2		2				2			2		2
			2		2				2			2		2
5	甘楽	南牧	1		1					1		1		1
6	吾妻	中之条	1		1				1			1		1
			1		1				1			1		1
7		長野原	2		2				1	1		2		2
			1		1				1			1		1
8	嬭恋	2		2						1	1	1	2	
		1		1					1		1		1	
9	草津	1		1						1	1		1	
		1		1						1	1		1	
10	高山	1		1									1	1
		1		1									1	1
11	東吾妻	1		1				1			1		1	
		計	8		8				3	1	2	6	2	8
			5		5				2	1	1	4	1	5
12	沼 田		1		1					1		1		1
			2		2					1		1	1	2
13	利根	片品	1		1						1	1		1
			1		1					1		1		1
14		昭和	1		1								1	1
15	みなかみ	1		1			1				1		1	
		計	3		3				1		1	2	1	3
			1		1					1		1		1
総計	小 計		17	0(0)	17			1	6	3	3	13	4	17
			13	0(0)	13				5	4	1	10	3	13
	合 計			30	0(0)	30			1	11	7	4	23	7

#### <5>複式学級の郡市別、編成別、学級一覧（小学校のみ）

	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年	学級数計	学校数
高崎市	0	0	1	0	0	0	0	1	1
多野郡	1	1	1	0	0	0	0	3	2
吾妻郡	1	1	3	0	0	0	0	5	4
沼田市	1	0	0	0	0	0	0	1	1
利根郡	1	0	1	0	1	0	0	3	2
計	4	2	6	0	1	0	0	13	10

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移 (小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級	計 (A)		県全体 (B)		(A)/(B) (%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
昭50	6,992	3,741	898	506	1,039	294	1,678	433	108	56	29	0		10,744	5,030	160,642	73,952	6.7	6.8
昭51	6,872	3,617	828	460	1,032	177	1,496	413	101	48	23	0		10,352	4,715	164,571	74,866	6.3	6.3
昭52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0		10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7
昭53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
昭54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
昭55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
昭56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
昭57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
昭58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
昭59	6,161	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
昭60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
昭61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
昭62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
昭63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0		2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0		2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0		2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0		2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0		2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0		1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0		1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9
平29	592	284	612	167	199	337	266	128	43	57	0	0		1,712	973	100,903	53,102	1.7	1.8
平30	580	253	613	156	218	312	249	115	46	48	0	0		1,706	884	99,461	51,510	1.7	1.7
令元	545	259	579	137	209	303	227	121	48	38	0	0		1,608	858	97,214	50,463	1.7	1.7
令2	532	223	548	121	192	302	220	122	44	32	0	0		1,536	800	95,135	49,836	1.6	1.6
令3	511	233	532	129	167	293	199	106	47	38	0	0		1,456	799	92,471	49,125	1.6	1.6
令4	404	154	499	107	88	316	290	178	5	0	0	0		1,286	755	90,252	48,214	1.4	1.6



## II 令和4年度群馬県へき地教育振興会役員

会 長 星野巳喜雄（沼田）

副会長 田村 利男（多野：神流町長） 山野 邦明（吾妻：吾妻郡町村教育委員会  
梅澤 志洋（利根：片品村長） 連絡協議会会長）

理 事 飯野 眞幸（高崎：高崎市教育長） 竹内 徹（安中：安中市教育長）  
飯出 哲夫（多野：上野村教育長） 小池 英明（甘楽：南牧村教育長）

山野 邦明（吾妻：吾妻郡町村教育委員会 星野巳喜雄（沼田）  
連絡協議会会長）

梅澤 志洋（利根：片品村長）

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
高 崎 市		飯 野 眞 幸（教育長）
安 中 市		竹 内 徹（教育長）
多 野 郡	上 野 村	飯 出 哲 夫（教育長）
	神 流 町	山 田 孝 行（教育長）
甘 楽 郡	南 牧 村	小 池 英 明（教育長）
吾 妻 郡	中之条町	宮 崎 一（教育長）
	長野原町	小 林 敦 子（教育長）
	嬭 恋 村	地 田 功 一（教育長）
	草 津 町	富 澤 勝 一（教育長）
	高 山 村	山 口 廣（教育長）
	東吾妻町	山 野 邦 明（教育長）
沼 田 市		竹 之 内 篤（教育長）
利 根 郡	片 品 村	萩 原 明 富（教育長）
	昭 和 村	小 野 和 好（教育長）
	みなかみ町	田 村 義 和（教育長）

監 事 小林 敦子（吾妻：長野原町教育長） 萩原 明富（利根：片品村教育長）

令和4年度へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局 書記・会計 石川 文俊 ・ 丸山 剛史

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
高 崎 市	高崎市教育委員会	吉 田 美 香	小 須 田 香 織 （西部教育事務所）
安 中 市	安中市教育委員会	河 原 田 博 英	
上 野 村	上野村教育委員会	小 池 啓 満	
神 流 町	神流町教育委員会	齋 藤 篤 人	
南 牧 村	南牧村教育委員会	茂 木 晶 子	
中之条町	中之条町教育委員会	島 村 弘 志	神 邊 幹 晴 （吾妻教育事務所）
長野原町	長野原町教育委員会	菅 谷 麻 子	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	野 寺 秀 樹	
草 津 町	草津町教育委員会	吉 澤 和 子	
高 山 村	高山村教育委員会	大 淵 俊 幸	
東吾妻町	東吾妻町教育委員会	桑 原 菜 緒	
沼 田 市	沼田市教育委員会	星 野 優 太	福 島 美 由 紀 （利根教育事務所）
片 品 村	片品村教育委員会	戸 丸 権 次	
昭 和 村	昭和村教育委員会	綿 貫 寿 美 子	
みなかみ町	みなかみ町教育委員会	長 谷 川 基	

### Ⅲ 令和4年度群馬県へき地教育研究連盟役員

#### 役員

- ・理事長 飯島 好行 (高崎：高崎市立倉渕小学校)
- ・副理事長 水出 宣広 (吾妻：草津町立草津小学校)
- 星野 文隆 (利根：片品村立片品中学校)
- ・常任理事 桑原 武史 (吾妻：中之条町立六合中学校)
- 田部井由美子 (沼田：沼田市立多那小・中学校)
- ・事務局長 梯 直人 (多野：上野村立上野小学校)
- ・会計部長 伊藤 公夫 (安中：安中市立細野小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	所在地(電話番号)	県へき役職
A 高崎 安中 多野 甘楽	飯島 好行	高崎市立倉渕小学校	高崎市倉渕町権田314-1 (027-378-3218)	常任理事 理事長
	梯 直人	上野村立上野小学校	多野郡上野村新羽32 (0274-59-2004)	常任理事 事務局長
	伊藤 公夫	安中市立細野小学校	安中市松井田町新井365 (027-393-1322)	常任理事 会計部長
	中澤 勝芳	神流町立中里中学校	多野郡神流町神ヶ原422 (0274-58-2517)	
B 吾妻	水出 宣広	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町草津3-1 (0279-88-2156)	常任理事 副理事長
	桑原 武史	中之条町立六合中学校	吾妻郡中之条町生須543-1 (0279-95-3572)	常任理事 図書新聞部長
	小池 裕生	嬭恋村立西部小学校	吾妻郡嬭恋村大前甲805-1 (0279-96-0013)	
	関 幹彦	長野原町立応桑小学校	吾妻郡長野原町応桑20-2 (0279-85-2002)	
C 利根 沼田 吾妻	星野 文隆	片品村立片品中学校	利根郡片品村大字鎌田4480 (0278-58-2019)	常任理事 副理事長
	田部井由美子	沼田市立多那小・中学校	沼田市利根町多那732 (0278-53-2919)	常任理事 研究部長
	高橋 直樹	東吾妻町立坂上小学	吾妻郡東吾妻町本宿389 (0279-69-2005)	板木
	平形 隆正	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村糸井5455-354 (0278-24-7166)	

### Ⅳ 令和4年度群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏名	勤務先	所在地(電話番号)
吾妻	山本 徳幸	吾妻教育事務所	〒377-0424 吾妻郡中之条町大字中之条町644 (0729-75-3370)
利根	中野 敬造	利根教育事務所	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

## V 令和4年度へき地教育功労者

No.	氏名	該当する内規・功績の概要
1	くろさわ かよこ 黒澤 香代子 上野村教育委員会推薦	令和4年3月に上野村立上野中学校養護教諭として退職するまで、多野郡内のへき地学校に40年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	みやざき ひさし 宮崎 恒 中之条町教育委員会推薦	令和4年3月に中之条町立中之条小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	たかはし せいいち 高橋 清一 長野原町教育委員会推薦	令和4年3月に長野原町立中央小学校教諭として退職するまで、吾妻郡及び利根郡内のへき地学校に26年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	まるやま ひでと 丸山 秀人 長野原町教育委員会推薦	令和4年3月に長野原町立中央小学校補佐事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に16年11ヶ月間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	しらいし まさあき 白石 昌明 長野原町教育委員会推薦	令和4年3月に長野原町立東中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に25年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	すがや けんじ 菅谷 健治 嬭恋村教育委員会推薦	令和4年3月に嬭恋村立東部小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に26年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	みずいで ひでき 水出 英基 草津町教育委員会推薦	令和4年3月に草津町立草津小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に36年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	やまざき すみえ 山崎 澄枝 高山村教育委員会推薦	令和4年3月に高山村立高山小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に20年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	こいけ きょうこ 小池 京子 東吾妻町教育委員会推薦	令和4年3月に東吾妻町立坂上小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	さとう とおる 佐藤 徹 東吾妻町教育委員会推薦	令和4年3月に東吾妻町立東吾妻中学校補佐事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	くわばら としえ 桑原 敏江 片品村教育委員会推薦	令和4年3月に片品村立片品小学校校長として退職するまで、利根郡内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	はやし てっし 林 徹志 昭和村教育委員会推薦	令和元年度～令和3年度の昭和村立大河原小学校校長在職期間に、群馬県へき地教育連盟理事、常任理事を歴任し、令和3年度は群馬県へき地教育連盟理事長を務めるなど、へき地教育に尽くした。

## あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第71集の発刊にあたり、御指導くださいました群馬県教育委員会の皆様をはじめ、御協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきましたが、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大を背景に、令和2年度は発行を断念せざるを得ませんでした。しかしながら、翌年度、第69・70集を発行し、今回、第71集を発刊することができました。

今年度は、第71回群馬県へき地教育研究大会がみなかみ町立藤原小学校で開催されました。従来の開催方法を見直し、研究協議、学校公開、情報交換という半日の構成で、大会をスリム化して実施しました。研究協議では、小学校・中学校の実践が紹介され、へき地での学校経営について、学校公開の授業参観では、少人数での学習のあり方について考えを深める貴重な機会となりました。情報交換の場面では次年度以降の研究会の持ち方等についての協議も行いました。各校の教育実践の参考にしていただければ幸いです。へき地教育の推進を図っていく一方で、児童生徒数の減少により、へき地校の状況は厳しくなっていますが、みんなで力を合わせ、へき地教育を盛り上げていければと考えます。

今年度も、へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集等の御協力をいただき、無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。完成した「板木」第71集が、今後のへき地教育推進の資料として、より多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下の通りです。

### 群馬県教育委員会事務局

春田 晋（義務教育課長）

土屋 真美（義務教育課 人権・キャリア教育推進係長）

石川 文俊（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事）

丸山 剛史（義務教育課 人権・キャリア教育推進係指導主事・板木担当）

### 群馬県へき地教育研究連盟

飯島 好行（県へき連 常任理事・理事長）

水出 宣広（県へき連 常任理事・副理事長）

星野 文隆（県へき連 常任理事・副理事長）

梯 直人（県へき連 常任理事・事務局長・調査部長）

伊藤 公夫（県へき連 常任理事・会計部長・図書新聞部）

桑原 武史（県へき連 常任理事・図書新聞部長）

田部井由美子（県へき連 常任理事・研究部長）

中澤 勝芳（県へき連 理 事 ・ 研 究 部）

小池 裕生（県へき連 理 事 ・ 研 究 部 ・ 広 報 担 当）

関 幹彦（県へき連 理 事 ・ 調 査 部 ・ 監 査）

平形 隆正（県へき連 理 事 ・ 調 査 部 ・ 監 査）

高橋 直樹（県へき連 理 事 ・ 図 書 新 聞 部 ・ 板 木 担 当）